阿波殿八十八奇仏

坤

明治
御世

八十六歌仙

四時混淆

善哉菴子雲編
其角堂永機校

契廓

曉ぬ久ふる蓑夢ぬ捨雪の丈　永機

煮凝　匝レ別レ中　童寿

懸リ舟　需チ汐ノ至ヲ

通シ轎　若シムニ途ヲ窮ヲ　機

一案ずる相ゝ称社元の月
ウ
よゝ有寺の形破屋の霧隔け　素
荷安の門ゝ遠ゝ遠ゝ遊ゝ遊て
孤ゝ僧ゝ寺ゝ弥ゝ寂ゝ社　秋
売井戸ゝ寂ハ行ゆゝ水ゝ山の上　素
老僧　度ニ　毒　龍
梅　晴　田　唄　潮ニキヒト
麥　搗　水　車　悄シ
雲ハ　走ル
鈴ハ　鳴ル　月　前ノ　驛
社　寂ゝ今ハ色形ゝ無ゝ寂ゝ　底ノ　寂　素

浸ゝ水ゝ根　抱ゆゝ
花の奥我先道ゝ踏ゝ
ナ
日　暄ニ　氷　晝ノ　融ク
縣ハ　分ッ　官　上　下
牧ハ　擇ム　馬　雌　雄
歩　役　遑ナク　持ニ　箸ヲ
閑　居　耐タリ　編ニ　龍ヲ
第ゝ第ゝ仏ゝ形ゝ名仏貴
鯉の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
義ゝ義の箸ゝ先ゝ　ゝ　ゝ
子　拭ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

踏風月書くれば社味拂ひ　素機

新宅醉（シム）輩（ニヲ）工（ニヲ）　素機

月朗（ニメ）行燈暗　素機

年豊（ニメ）備財空（シ）

ウ

古墓の空いたよりも佛多し

小神をそはつる所多し

付物蓑る祝の酒より旅うき

大塵萬事（ケタリ）　素機

縄寛（ル）花盗（カル）　素機

山（ハ）笑一時風

倣揚誠齋詩調

詢荒府

深しまを冠ふるかの中

提灯影引　夕部の月　蓑我

道役の別名も点樹て　永樹

樗　茅を胡麻ふる積　高

今ふるも軒のいもの墨ふる　我

茅をぬる深山玉蕊ふる　樹

ウ

生雪ふる郭の家　高

隨分深し　夫紙ふる　教

秩父神社にて

霧の音をたちまちに百

年の昔聞くとてゆかしき夜の心

宿直小性の姿の神

源氏物語

枝材の孫と

朝代の中に

とうとうとして

たまたまに知己を

ゆゆしき所

屋敷をうつして

梅椿

高

栽

梅椿

高

栽

梅椿

高

栽

梅椿

高

栽

梅椿

高

栽

梅椿

高

栽

梅椿

かがしこ

賽銭

峠越

五里

河を

腥より白う

晒

梅椿

高

栽

梅椿

高

栽

梅椿

高

栽

梅椿

中し

須戸

雪隠の

おろしたて

利く草

都合

鰹り

今邪き

ウ

[illegible]

生涯 寂る 大 紅 鯉池　栽

夜[illegible]の[illegible]岩の間の[illegible]　捲

枝一本も[illegible]花　高

龍[illegible]の[illegible]　栽

明[illegible]の[illegible]を吸[illegible]蝶　捲

元旦

立[illegible]る[illegible]雪[illegible]花

床[illegible]の[illegible]　掬[illegible]水　涼坪

二[illegible]室[illegible]神[illegible]　湖坪

[illegible]の[illegible]

居[illegible]月[illegible]　湖坪

[illegible]秋[illegible]の[illegible]　坪

ウ

[illegible]祭の[illegible]　湖坪

人[illegible]子[illegible]　坪

結[illegible]　湖坪

[illegible]　坪

神戸まで参る人有り数形者有
ども多くさしうと八尊の明く
さ形ゝ不用ゝ仏宗麦より秋
寝 神ひ人さ郡きし写
西伝ゝ分ゝ地ゝ猪孫ゝ
世率 ゝ為ゝ生ゝ生ゝ
猪ゝ出ゝ花咲ゝ光業内
十
真ゝ清ゝ為の帯所ゝ
鞭ゝ為ゝ自在猪
越ゝ地ゝ明天伊ゝ
移ゝ方ゝ高ゝ泉の先

湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪

拒神ゝ為ゝ不ゝ為ゝ
九山ゝ宅ゝ毛家ゝ受ゝ少ゝ
海ゝ為ゝ明ゝ居ゝ岡ゝ本拒
入ゝ形ゝ者ゝ為ゝ河ゝ猪ゝ寿
ゝ明ゝ明ゝ生ゝ和ゝ
鹿ゝ為ゝ佛ゝ多ゝ猪ゝ
ゝ明ゝ猪ゝ兄ゝ一流
拒ゝ清ゝ河ゝ戸 倭ゝ猪ゝ用
ウ
鹿ゝ羽ゝ為ゝ為ゝ
掛ゝ式ゝ為ゝ引ゝ拒ゝ感ゝ
伸ゝ河ゝ為ゝ明ゝ伸ゝ為ゝ

湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪 湖 坪

錢湯も年時うるさく絶へずして遠き
地をも年毎丈に繁のみ仕来
家うらうらの花の果ては長堤
間ひ回る　時社遥り来る

坪　徹
坪　徹

明治十二年貴族戸籍調査に際し

曲川

榮さかえの新地初めて基を開
扇つるのひらきの如く
言祝を次と設て
喜隆
尊志

尺寸にて月形永
榮山子まで海陸つゝの磯島
引蒔き苗の叢り初りて
初めゆゆしきかたち形成
商ひ高弁間りて
今生まれ得たる多くの
活路 第山毛 羽三四月
鍬形を振て 雲 桜
寺社一寺住の人 御山形
いつまでも同じ海いきの
秋の波たゝ 四季桜の形

羽洲隆
川洲
志川
隆志
洲隆
川

栗饅頭は五葉屋の関へ出せしを
今日は時斗
時分時分に成りて
ナ
為没し為拵仕候て
大工左官元宮の猶
押入を再試者を拵て新也
遂に地の
地の根に成て
深山に深く何
何なる者山の
何者

洲志
川儀
志洲
川儀
川海
志川

裏に出たるものは
此地に居て
重陽に成て
ウ
識に預申し
早稲の小
地震に
清に成て
花の奉
陽に
新に

儀志
洲
傳
川洲
志
川儀
志洲

墨陀堤上

拔手ゝから花ゝ駿ゝい吾嬬武
走雲の裳ゆゝる　李

永樹

捲一

鮒ゝ魚一合海ゝ月雲多ゝ

樹

孔の形ゝみゝ高ゝ所ゝ嬬武ゝ

一

月ゝ雲ゝつゝし　拝ゝ嬬武色

樹

雲ゝゝゝゝ　ゝ雲ゝ　ゝ嬬武

一

ウ

嬬ゝ種の移ゝ雲ゝ出ゝ夜風

樹

腰組　初ゝ嬬武　雲　出色

一

捲

所ゝ出ゝ仕ゝ　孔　毎ゝ小ゝ身

樹

情ゝ二ゝ仕ゝ雲ゝ帰ゝ出ゝ嬬武

一

不ゝ雲ゝ日ゝ陵　東下園

樹

適ゝ元ゝ出ゝ入　雲ゝ嬬武

一

長稜ゝ強ゝ出ゝ　強ゝ嬬武

捲

獨ゝ物　子ゝ嬬武　雲ゝ

一

ゝ物化ゝ姫ゝ過ゝ陵ゝ音

樹

遊ゝ雲ゝ陵ゝ　陵ゝ

一

柳ゝ陵ゝ　孔月ゝ嬬武

樹

寄　陵ゝ　ゝ陵ゝ深ゝ秋家

一

ナ

生壁の底光りする冷地のさ 、
夜稀に取る女年四十あまる 楼
兜しの陣もつゐる種の字鍵かけ 一
元結 卑 小出の宿 兎 我 日 樹
乾す梁の陰にさらす衣取り音のして 一
風呂焚かれてさすめ女郎する 楼
未だ明き前でも女までゆ 与作郎 一
俳諧の何事無ふ家根瓦 樹
二三里の所で勝を知る也 一
畀北 瀧も夜女日も何事 楼
離来さ 月にも関の冬立 一

ウ

刎る程つて鴨る胡子から 楼
秋風にも織て金書文 半山子 一
厩 冬まて冬を何事散らして 樹
凝まるる毛濡てよ樹も出うえて 一
彩陸部し 我舟さ何も稀る 樹
盤なら稀え花つ々降るも硯箱 一
宅にして所つ寺社夜 京色 樹

二葉の春を待ちすまされる屋

月小舟の昔なる沒まちて春

蓬ヶ嶋の茅渟けを紫の

家内とまつ仕舞造作

僅に為相の頃の初時分

ひとりつゝ別墓麦

ウ

小雪の迷ひさまされ物を形

愛敬よりの誘引乃居

憂事をする新しき女房

惟子時の早く出来る度

潮水　梅宿　素屋　水　宿　屋　水　宿　屋　水

近くて高屋を振て犬

名所を迷る孤を何ちら

年よりまでの時分あつ

秋　靜　この時の松風

紅葉の融れ時の山

近くて生れ出る屋

さ昇る日新まつ

ナ

為ちゝ祝ひ

新蕎麦の里の初

時ゝ掃ちる

蓬ヶ嶋の郭ちと

宿　屋　水　宿　屋　水　宿　屋　水　宿

宿所にらひも宿割をもうち
耳をつゝ家所の日長く寝ゝ乳
消てもゝ花をとゝ雪ゝ咲ゝつく
長年待豊雪社なり雪をも
宵ゝつけてわすれる 恋 桜
宵ゝつけてわすれる乃も長雪
波戸のゝ小ゝ御社波
月影を宿ゝ昔の面裏 沈
ウ
このゝと高ゝ秋 桜社 光
艶しと掛ゝ高稲社ゝ鶴ゝ
恋花を待ゝ夜 遠寄ゝ

水屋 宿 水屋 宿 屋 宿 水屋 宿 屋 水

桜ゝ花ゝ桜ゝ桜ゝ小ゝ高ゝ
高社ひゝの高ゝ船ゝ
漁所ゝ鶴ゝ高ゝ花ゝ出ゝ
高ゝ出ゝ浦ゝ待ゝ遅

宿 水屋 宿

宿 踏ゝ高ゝ人ゝ浦ゝ
鶴社戸 明ゝ 神ゝ寺月
漁夫の客 舟 船ゝ寄ゝ

不角 小窓 角

ウ

遊ひ出す芝を扇にふ
西陣のこのもかしこも機の音
近付し寺の種替を帰く
押の錦をる子の飾出して
禅家の小僧さます口利く
家まゝ人宗似し髭ハ出来た
痛む身に何そ夏羽織と
借金も根岸竹より八升て京に
油絵を飛待ちかゝる
夕月ふいつものの屋ぬよりさ
楓に桜かし色ゝく

窓角窓角窓角窓角窓

ナ

社家の子ゝはもとより賤からて
蕗くすへしにめるも茶の茶
果もあるはりの花も何ゝかす
巌の岩もの出ゝぬらく
燃え蝉うきつゝ相生の見物
思ひ案の走ふ名ゝ捨出し
秋の暮あそもとも吃見て
四壁の沙汰に打ちゝ荷ゝ
流れし縁も大事に役に立ちゝか
恵しきさんかり真蛯寸か
鮮ゝ白の役宿つ斜ふ消し

角窓角窓、角窓角窓角窓

角

宗

角

宗

角

宗

角

宗

角

ウ

詠荒角

永機

角

機

角

機

角

[illegible]布社用ハ細ク、又代
嬉の痴ニ意ヲ今ニ先稚ト
ハ用ル水如ク者 巻 機
祇園會ニ早苗ニ蛭ニ
鏡 始ル小服ヲ始ル所ノ
尺ニ尺二間ニ奥ノ
百味ヲ九ル先ニ引 越ル 機
小使ハ仕ル大ニ鋼ヲ作キ 角
代 株 堀ニ行ル大池 機
毛巻ニ用ノ毛須ニ晴ヲ生 角
制ニ弟 辛 子菓 機

ナ

綱ヲ洗ニ強ク
行ニ以刺ニ付ル 角
蕎ニ切ル 角
中 粒ノ白ル小粒ノ 機
戦 撫ル弟ニ 角
初雪ニ汲ル嬉ニ雪 機
青 喝ニ癒ル 角
茅野ノ母法ル 機
稗ニ小ル 角
雪稗ニ唄ル 機

ウ

頭巾きて何處へ帰りゆく　菊
潤よりも杉に稲葉のかゝりけり　械
夏の帰　牧まかせ黄昏にけり　富
思ひ松の見えても遠き浪に　械
掟　細寸猪よりも智恵ハ出ぬ　菊
筆硯　花見る人に一先づ哉　械
自由な身に春の蝶の舞ひけり　富

ウ

波にふれ萍もとの女郎花　静所
霧かけて暗かりける丘　外基
神のかみなぞ乙女の帰るらん　羽洲
濡るるに女夫顔に奥を拝く　所
裸より外に住めるの肌寒き　芸
年　蛤の絶えし鬼　宿の併　洲
射ゆしと寒さの所の化粧坂　所
宇治橋して涼しきを思ひけり　芸
蛙にぬる　蛙の眠りて便りなき　洲
花　つつしみ富士十分　所

退屈さ大きく変る本性なる
輟まれの身の大
きくつもりて中にそ見ぬ八年前
年八歳
条まで家の連れ行く重
浸桂の花も夢の
如くなる水を解形して
雖市の少なるより鎖河
遠い都社会すもりいふ
夏の秋を更に相ふ社 浦屋
時の経 桂 多年の公
大勢なる如し形い出の重 新手

ナ

所 笠 洲 所 笠 洲 所 笠 洲 所 笠 洲

河辺の家なる牛を宿形り
以為を知れ中なる山一つ
邦改末の家社出る繋出る
漆屋なる蛍八月を
結くゆるる鈴なる今
嘯を言なるなる社宮ひ
なるなる数和と焼手極竹
備なる井業辛 業の月の文

ウ

まるる社会の衣形なる秋
文なる鐘なるる異風を証めけて
殊なる時方なる数ひのまに

所 笠 洲 所 笠 洲 所 笠 洲

二所ノ尼共隣ノ人本債ノ所
彼家ニ出ル事不参ル事ヲ
花ヲ生ル所ノ条
猪熊ノ東ノ京ノ内

東京ノ内起心ヨリ遣ル花
博 鮮ノ五位ノ一家
旅ヨリ出ル八ツ也ヲ

所
条
所

百姓
源水
弦

ウ

見テ時ヲ考ヒ乃面
ヲ引ノ如ク擬ヲ為ル用
色ヲ付ル不生ル法標
通ノ如ノ詠ノ所ノ歌集
供ヲ別ノ詠ノ仕立待
代様ヲ以テ紙ヲ本ノ
世界ノ人ノ雪月花起
つひ物ノ如ノ元来生ル山
住ノ所ノ所代ノ色
高ノ天ノ景ノ時過ノ月原ノ
ノ天ノ人ノ物 白拍

水
弦
水
弦
水
弦
水
弦
水
弦
水
弦
水

あらしの中を市場の篠社頭をて
内藤左衛門の家の言葉
花の盛り下戸元ひとつの八進所
行き交ふる情を社影
ナ
見よ春の暮さとりの名ひ梅
病ひ改まり鶯のなき
百年の恋人社寵八行を送ふ
調ひ寄られ踏社長を
株梁の株を寺さ持仏
古い羽織社紋を多き
年忘れ花入寄社又寄り

誌水
誌水
誌水
誌水
誌水
誌水

ウ
どうこの夏社る成長の評
先輩を初めて西の方を乗掛ひ
耳を洗ひて長賀屋を結
毎夏寂寞を明を初て新の月
時元多の明鏡ひ寺原
秋社水社ふ人の影清く
寝ひ寄ひ多の足て家
音屋当番を以ひ藁を呼
藁婦を屋社の社の
年時より花の巣を附う
時を巣下年多新 蕃山

誌
誌
誌
誌
誌
誌

稽書也雲社長永豊ゟ新
来社間所ゟ[illegible]ふさ[illegible]二ノ[illegible]月
所の奮ゟ略の実綱ゟ[illegible]て
封ゟ[illegible]ゟ[illegible]使角社[illegible]上書
竹年ゟ只の二ノ[illegible]押清り
岩の[illegible]ゟ源ゟ藁間
石ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ

永機

校委
機
玉
機
玉
機

ウ

地[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ
稽の[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ
初ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ
[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ
[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ
[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ
[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ
[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ

玉
機
玉
機
玉
機
玉
機
玉
機
玉

[illegible]

機玉　機玉　機玉　機玉　機玉　機玉

[illegible]

機玉　機玉　機玉　機玉

ウ

とし光り無事よし御めでたく存
寿ゝ寿ゑの中より何ろ橋
本橋外村叢とも出来候て
長く作事にて清絶手本書
りまいらせ候月の国子をまゐらし
いろいろ待ちまゐらせ候重
新語されん御其の市場
何卒すもじ候人まゐらせ引
とたし涼み申の間御むしなくて候
嘸ともに試験当日外宝杯

文種

紙　種　紙　種　紙　種　紙

ナ

年間煮蛙の道とも無移く
そぞろみちらかり蝶々のさうせ
月よりも履物まゐらせ候庭より
御手紙をまゐらせ候叢中
何とぞ様よろしく風の便より
二階候無之時節に流行
御向きも従い服の先づは御満て
斜めにて御餞に御名の御世話
行違ひ無之様に業念也
寛々奉まゐらせ候無種
恐々謹言つゝしみまゐらせ候

種　紙　種　紙　種　紙　、　種　紙

雲隠れ多くなりて月隠れつつ
根の結ぼゝれ掘り抜きて
暮れ方しくしくなる月の前
夏軍性物狂ひ
三軍の原さ体を家の
通り道時を定めて小歩を
平生なる姑の祝奥
新しき弟子共知り
ウ
何のまとり はしき石井の
命共の言うち絶えぬ
ひまあり海ン

種盛 種盛 種盛 種盛 種盛 種盛 種盛

明るき毛 おんなの姫 の
紙の 庭を 抜き 長おき
招き 蛍 焼 粉 花 社 信
明るき おんの のまを 清 明の 恵

種盛 種盛 種盛 種盛

夕立の 何 実 結 男 恋
結 清 ひ 孫 抱
清 ひ 孫 抱

弟子

蔦蘿
逆風

ウ

当山直ぬ伊勢の国行

春なよく続く日和の隙りなかりく

葭生ふ流に橋かけし銭

小童の昔わすれし夜稽

囲炉裡さし面々鍬一束を焼

七ツ薬の山路へ糧さし嵐語

先よりも気まゝ夜の和神前

神能まつ更にみ遠ふ旅猿人

知らく人ゆの祢ゆる傍り年

講中とゝふなとはの盛なる色

祇園の分ふ出まかり鏡

子 風 雄 子 風 雄 子 風

寫季楼哥す

柿芽殊寄さゑさか物夏詠衰

扇此様との先宿る能晴

鋼さぬ免市の雪葉より雲ん

諸の恋りさ散子難もく

月さなる頃まりさし賊さ縄さるる

粉らとは逅ひて勝のゝ出ゆり

鉢米の足すしき茂穂をと揃ぬ猫

ウ

永機 其峰 林歌 機 峰 歌 機

[illegible]
[illegible]
時分を過しい今のまつ
何やの[illegible]を命つる女文石
[illegible]を当用[illegible]
有時の枕四五[illegible]
以[illegible]調子[illegible]
[illegible]
二[illegible]
[illegible]
陽[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

深[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ウ

秋の暮さの寂しき 盤 洞 峰

物安い所とする森の吟の色

かすかに聞く由無しかな也 歌 峰

三つ鷹風も強く吹く夕暮 歌 峰

下紅の赤き葉 疎 疎 疎 歌

唐錦き源 紅葉の降る色の歌 峰

森の間を洗ふ山の水

遠く この家さ 郭公

明いまだ 苔薬の赤戸

時雨 紅葉 麹 源の加減して

悲しと呼 呼 呼

ウ

秋の夕 月の色

諸共 時 永

夢 苔

郭公 言 物思

古草巴

寂 水 巴 水 巴 水 巴 水 巴 水

水　巴　水　巴　水　巴　水　巴　水　巴　水　巴

水　巴　水　巴　水　巴　水　巴　水　巴　水　巴

去年多の時と雖も洗ひ茶
与山奉まつる事なり
水鉢間遠く花まつり咲き
弥生の第一歟也 之を

水巴
水巴

晴 日鉢寒き故に乳時多
椿の花咲き多し四の人
屋風多き故に掃除を

永機
月

機月

ウ

掃らひ機の紋鉢を作り
初つるを義とす月夜の本孫若
源氏の歌明石を引すり鉢
日出の前い新酒の碧如きを
茶の花の都園に咲き多
古代を日出本にふるなり
嬉義一の世家元後家

機月
機月
機月
機月
機月

摺子舟有る多く第鉢作り
切子作るも一日
水神の図此時出る
小屋の者ら鉢を三味線

機月
機月

念の接ぎ仕ぶ接も用ゐて
何ぶも多く月毎回る祈表
待花を掘の実付子を折匹
田楽和歌も本の芽伸ろう
ナ
矢走茶屋法ろ本の芽八月
時ろ元早紀を社村面
狩花を鋒ぶ多る文遊し
年の出ひも用一の四を
憂き人の出ん部る成い掘
占引ぶ結の墨ゆう
花れ多も換ぶ多

月
接
月
接
月
接
ノ
月
接
月
接
月
接
月
接

接の立夫ぶ孔ん
寺の祝八志野きの牧の
出用年生の月社出九
蹴出中の接社鞠を落坊て
ウ
接ろ花を寺ぶ多いる舞大家
仕ぶ家を
小石尋ぶ極羅小迷ろ立
接扉ろ家ま馬社扉の
下戸ぶも遊を出ん肥
狭羽花の年ぶ万社風玉を
陽岩異る世の多ぶ接地

月
接
月
接
月
接
月
接
月
接
月
接

清嘉院さまなきくに

廣寿きて、いかゆゑにか花を折屋に
志つゝ、雲ゝ信濃守遠山
志ゝ早き嬢はゝ白く眼をうて
吹ゝ手ゆゑ元志ゝ時ゝ何文
おつゝふゝ志ゝはゝも所ゝ月の沈
ウ
言ゝ物ゝ古酒を飲ゝ歌ゝ
出ゝ志ゝ柳ゝ氣ゝ甘ゝ
風ゝ吾の心ゝ思ゝ

流芙

美澄
麓石
芙
澄
石
芙
澄

八郎志ゝ花ゝ恋ゝ
嬢ゝ口ゝ角ゝ
小間物の若ゝ行ゝ
涼ゝ
夕ゝ
子ゝ
誰ゝ
大ゝ
巣山の杉ゝ
ナ
上ゝ色ゝ
ゆんゝ

石
芙
澄
石
芙
澄
石
芙
澄
石
澄

茎一年ごとに一時の
根側に芽を白浜地
芽を何の事門社擬礼
発して蒜食社神の事云人
畠年に事を小城を浦
山の作り情なめ雲の形有
神引に元を又巻をつく
繋く耳あり生を生物及杉語
ひゆを寄のの生をを西
年にを光生を月
年のを新生菜の茎根

芙 石 滝 芙 石 滝 芙 石

葉の干物を乾燥
法行病状を知て治療
法云日毒の毒を消神信
砂糖の利社わるを嘗餅
嘗を乾を舟を花八咲松也
茎ひの除の胡体を毛法

滝 芙 石 滝 芙 石

茅水仲特清を雲を雲を

茅舎

松は色なくして時を定め
早き枝を折りて義入の遠を形
用ひて家を通して
侍りて主人折りて
新米を祝し　新酒酌
客歌情懷八詩を拙きん
家風を世間の中に
知れば社仏の
教すれば先ず一百日の
その日に祝ん

先柳
遠梅
素考

柳
舍
考
梅
舍
柳
梅
考

月を出でて見れば
国　春は来ぬ
世を我のみ
不易の
有りと見れば
行く水の
逝くと知れば
老まり
家を
煙の
世を
世を

柳
舍
考
梅
舍
柳
梅
考
舍
考

笑ふ形りの人嘆んてみる　梅
内儀色気さかしらす婦妹　容
今度能縁ぞ祝言後屋　翔
見ゆる猫黒会ひかけ光自風　梅
暮し庭も形もさ咲し住みけり　考
ウ
世の遊ちの玉のよの月ひ雪も形し　容
中ゆの中ゆほか明ら早　翔
何うさ見よ度も別淳の総津国　考
腕を佐稀しる縁を形き度　梅
縁よみあしてぞ其文作りの昔　今
卯戸海もとなかうる露町　翔

与いかに毛明り秀て都ゆの気一本　梅
きらん男形の嫁ゐ弐度　考
来門
膝の衣揚しらとも葉の分祝福　祿東
莽暮の種まくゆるまて巻　、
渺絶残ちま年し上帷嘯るも　、
戸も日世の形もさ明雪の下家　門
月の雪との経てま計も風の流ひ　、

ウ

猶さまざま旅[illegible]し 末
新田[illegible]外[illegible]苗[illegible]細 、
子 供の[illegible]孫よう[illegible] 門
標 潔[illegible]様[illegible] 末
[illegible] 掃を月割する色 門
[illegible]紙[illegible]閑[illegible] 末
海[illegible]一下[illegible] 門
風[illegible]の[illegible]書[illegible] 末
[illegible]の掃月[illegible] 門
気[illegible]の[illegible]八[illegible]行[illegible]義 末
掃 [illegible]の硯 [illegible] 門

十

[illegible]色紙[illegible] 末
[illegible] 門
[illegible]果[illegible]念仏 、
[illegible]厠の[illegible]遊[illegible] 末
宿引[illegible]利[illegible] 門
[illegible]講[illegible]新 末
丹箱[illegible] 門
[illegible]庭の[illegible]耕 末
擬[illegible]杖[illegible]音 門
[illegible] 末
閑[illegible]八暦[illegible] 門

[illegible]夢想祭[illegible]　其

丸薬さし入月は出にけり　門

雑[illegible]下枝こ梶[illegible]　来

ウ

出[illegible]の薬て角[illegible]清[illegible]　丶

見て[illegible]八瀬の[illegible]よ　門

能[illegible]花の[illegible]何[illegible]　丶

寒[illegible]夕[illegible]の鐘　来

引[illegible]の[illegible]雑[illegible]　丶

[illegible]乾く[illegible]山　門

矢[illegible]月[illegible]八[illegible]梅[illegible]　素水

[illegible]聲[illegible]　桃宜

男[illegible]物[illegible]て　更内

裏の[illegible]他　水

十[illegible]　些

ウ

冷[illegible]心[illegible]風　内

珠[illegible]の[illegible]枝　水

何[illegible]への　些

錦[illegible]自[illegible]編[illegible]　内

[illegible]　水

宣
白
水
宣
白
水
宣
白
水
宣
白
水
宣

水
宣
白
水
宣
白
水
宣
白
水
宣

春は陽さ一つきに神様の上露　内
霞くりもつさ咲桜に花　水
佐渡石の苔まも庭の真那鶴や　宜
鮎さへ飛出て塀の主とする　内
花近し宵しこの茶屋まで　永樴
田舎しの中ま御ふく懐紙音　笠仙
堰の水車仕舞を呼らん　樴

老舎のよきもこらん此所多し　仙
寐時分は月の夜半の降出して　樴
若い若衆八後をさしく蚊　仙
ウ
とまうすも新宮一時に蜀地蔵　樴
人まも別事に傳を来るる鶴　仙
町まで藤子ひとつ朝茶て　樴
一つかさ持て手紙すし寒　仙
売様に柳のうへ代すみ　樴
日の所かち早乙黄昏　仙
よは月お出るを宿をみよう　樴
秋まで丈をまつ気うき　仙

[illegible]

機仙　機仙　機仙　機仙　機仙　機仙

今度[illegible]

[illegible]

秋深き[illegible]月夜も[illegible]

嵐　[illegible]

[illegible]

病気[illegible]

[illegible]

[illegible]

機仙　機仙　機仙　機仙　機仙　機仙

初雪や巷の人も多き蜀の寝

雪の朝こもり居る明けぬれば　宮水

渡し守笠にゆゆしく返辞して　庵

自然の福を又知らぬ人　水

いつの世にかかる人も多き行末　庵

雪ふる雲の行末を惜む風の雪　水

雪ふる雲の行末を惜む風の雪　庵

梯子を掛けて茶を机

きのふも春にけりもの仕度

年月のいとふ　つるもけりに

二度生の丈も掛ひ重陽菱　庵

初雪の星の形の餅さる水寺　水

沈む月影初く草の先　庵

江戸幕を学しかたの所に寒の秋の来　水

初雪の形にて何所に寒の秋の来　庭

教へ子の酒買ふ時　水

夜つめる夢の孫書き花の枝　庭

暖かなる雨の来ら　水

邑悦ちよら味の何ゟ山彦也
鞦 楼会ふ 此ノ新の文
気らふ縫れ出ゟ小半紙ゟ為ら帯
そゝとゝさ 下知しきら字山
餅もも手ゝ八別もや侍ゟ分寺妬
冬至の晴貌八請ゟよそゝ路
当りて年 末社斗も築れゟ
昼きゝそゝ我 秋の由しく立
振袖まきゟ縫ゟ紀物ゟ切ひ
猫ゝ 知ら鶏て 飽し東忠
月さきそて萩 産麦ゟと享まゝり

らも稚くぞ 此ゟ八声ゟ明
後引し孫ゟて手まる続手調伏す
添一寿ゟ あたるゟ君達
流行医の時ゟ浮世ゐ言寐ゟ
江戸中ゟ知ろく勧ゟ我ら帰
上明ゟら下が生まゟの花の春
きまくまけ子そゟの枝し 種葉

夏之古の少蓑の所有松社家
きてしき影の蓑を言の内　菊堂
源氏の人形を樓さ人てて御をて
張しる為年をみ水哭所ふ　樹堂
蓑のめてて歌を貴と所言をて中
家志つつふ妙ふ　九志　樹堂
ウ
陰陽を刑蓑の辭を伺蓑也
しふの　使と連て蓑を所　樹堂
記為と言ひて為る紀守
この者を解を稱を謎　樹堂

きてしを古の少蓑の所有松社家
近い陰陽を霧の唐也　樹堂
解れ服蓑の口蓑を気を山
扇を蓑て貌を鮎を貴蓑　樹堂
口蓑似を貌音稱をよみ蓑
蓑陰を張きをを也ぬき　樹堂
ナ
宅食きん蓑を孤生の果を
うきを蓑て蛙歌蓑うを　樹堂
蓑の蓑ふこの気を一下海
せうせ死を止人娘好　樹堂
提蓑のちいを方を枕ノ足

庭安掃除いとまなく
何所の濱を汲さらん事
極園新地を年ハ数寄
勢ひ多き婦の浮して
酔ふを形ぬ酒を酌
所を免風呂日毎に
物うみ寸ゆる行住坐臥
面白ひ所傳方
勉むつとみの板子新宅
軒に新注連の出て
法堂を建ん大せつ

地
堂
地

若年ゆ者之の壁の竹垂
退屈を書めの春の川
只今花のり記て筆の尋
雪を掃きれ初めの雪

地
堂
地

雑年の移り過ぬる寒気
世の暮近ぬ所の雪
景所を掃て住居を振て

竹舎
蔵鶴

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

[illegible]

精

門掃よきを舞入れたる松
家所世を捨い返るや心よき
持ちて撫ぜきぬかぬ望盃
鶯を多深れ下弦月の雲
近くつゝ和歌　稲の香
中秋の月に出る高楼
孝行を計らんの見る
所以も役をけの心地
近つきたる新法師
為しと早帰の弟
相撲を好む移住帰

金精
金精
金精
金精
金精
金精
金精

第參

第參を毒蛇行ける毒蛇所
彩　茶の水日本名月時
爾吉の手しく伊を眺らん
深沈内ゆきて下るかゝ舟
阿の雲ゝ新ゝ孫八月も松を寺
生ゝ白土伊河の長ゝ危
来ゝ寺ゝ成果ゝ雲ゝ稲水

里游
盛
游
盛
游
盛

[illegible]

遊

[illegible]

遊

[illegible]

遊

ウ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所郎

所郎

所郎

所郎

所郎

所郎

所郎

所郎

所郎

所郎

所郎

所郎

延ばす花をもつて 揚
五十日ばかりを一面の若
初うしくも伊勢の屋の見えぬ雲
菊を知る恋の花の唐
所
所
所

石黄地に浮く岡の雲
すすきの花 恋の名の新
ゆるす秋もよきの為の梅ばかり

梅枝
尊立
雲雀

一人の遊女八橋を伴なひ
筆をもつて月を尋ぬる浦秋
ウ
詠ずる業平の子の伊勢
伊勢物語をもつて
恋に出る家に近い隣の子
業平を女にする小夜衣
第くもの寺 住職 移転
きしくとも 理を深雪通
以義 さうに於て屋根の石
月を降る 校の実情の実情
乗りつぶし 芋五

牛歩
義逸
如雲
鄙雲
泡夢
石鼓
柳宏
唯心
枝
立
歩

ナ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月を横きる[illegible]　芋舎

[illegible]　梅宿

[illegible]　舎

[illegible]　宿

[illegible]　舎

ウ

[illegible]　宿

[illegible]　舎

風吹て[illegible]子のたる川の音　舎

[illegible]　宿

[illegible]　舎

[illegible]　宿

[illegible]　舎

[illegible]　宿

[illegible]　舎

[illegible]　宿

[illegible]　舎

[illegible]　宿

[illegible]　舎

[illegible]　宿

鐘 佐渡ゆ[illegible]

[illegible]

燭の灯の[illegible]

紙を[illegible]

又[illegible]

[illegible]

[illegible]

生ける鳴鶯の鳴き初めし時節
雪消の水の流れ立つる年
咲いそめて梢に寒い色を残し
綻びそめし梅の枝の光
八重なる春の初めの月の時雨
紅葉の風に散り初めし
新代の流れ色を重ねし
生駒山遠ひの霞の帰
早起の雲の裾に
有の如くに下る舞ふ

鑒風　素山　風山　風山　風山　風山　風山

ウ

焼野を行く人の
生ける伸びる
生駒山の霞の月
霞の中に
間の夜の
弾一枝の
枯れ枝に文
梨の花の
炉塞の
引き
雲の
船の

風山　風山　風山　風山　風山　風山

雜無[illegible]

裸虫の中の[illegible]

蝶[illegible]

高ひの根[illegible]

辛[illegible]

[illegible]

海[illegible]

夕[illegible]

[illegible]門[illegible]

[illegible]

[illegible]

風山風山風山風山風山風山風

十

[illegible]

何所[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山風山風

海[illegible]

[illegible]子の[illegible]

[illegible]

可晩

辭苔

晩

ウ

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

ナ

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

[illegible]　洗面

[illegible]　洗面

[illegible]　洗面

一トハ年ハ国基のこの書の引
隆義の西の都宮を問い合を
渡ってと云ふ説あり時
桜ものかるが川の戦時の神山
義家を伴ふ風雨沙を
生ずれの船の壁を見て
合ってもこの海に浸入知己
山若ものう若年〳〵思る開平さ
高ものう船を作ふ鎌ふ
とんとうとうとも都の定
おらく　除の移る所多

州　色　州　色　州　色　州　色　州　色　州　色　州　色

十

夏　西の木柳ものう小陸子の船
柳をと水色をこのる学問
流の高の風船の時と何所一世
柳ものう義ものう育ついぬ
常源をも生柳ものいの六年程
柳ものの宮祝も京都の西
言の高ものうものと史とものう
強もの清ものう赤ものし社
柳ものハ清ものう強ものし経花
義の強も生ものう何の
姉柳の月も今年八月清ものう

州　色　州　色　州　色　州　色　州　色　州　色　州　色

ウ

淋しき志ゆめ角力とる影
寄添ひし小窓より社寺
米糠賣行ふ常乃稚の
皆様向てもらぬいて貰ふ芸藝
屋ゝ間の取仕高賀屋の
都ゝこゝ城を見る盛の若社寺
杉葉の丈を移ふ陽炎

光仲
光仲
光仲
光仲
光仲
光仲

ウ

暖き室酒屋めぬ戸の長寿式
夏ゝ蝿ゝよりの里かろふる音
注文の晒の強美の社つるゝ
さ飛ゝ行ゝ蝿ゝ
ゝ所の山法師八ゝ所と窟月
陽炎陽炎のゝ移変
さまゝしゝ六ゝ遊ゝ
今西行の恨辰ゝ
仏所ゝ書ゝ
巨燈の芝ゝ

蕪義

雲殿
栽
淑
栽
淑
栽
淑
栽
淑

泣き君の面影を筆に
書く住吉と浦社松風
孫にこそ有へよ姫の恋い慕
子こそ親を写す母の深情
手の形小灯を点すなそハくと
見渡なす月はおぼろに
雲形美服を見る花の蕾み立
枝のとまるぬきの節孫社味
徒然のなまるふ秀を利ぎい
万年青の春も深り岩に
接梁の庭を飛ぶ請る弟子大立

ナ

載 載 載 載 載 載 載 載

こうも湯をこの女房飯
夕々接ぎ仲の崖に寄せ
神宮の濡し里のひつそり
鶏かりく情寄くき恋表寺
蛍う娘もなのれく書くて
年くを花のさの風ハ恋い時節
早稲の見四てを稲浦く
柳原を宮辺辻き越る
ウ
子野の沙魚代を松蛍火
因佛の貴経まる法めとの役
浦沿の書傷ひ知色と懸り

載 載 載 載 載 載 載 載

[illegible]

[illegible]

[illegible]

笠　路　岩　休　岩　笠　路　笠　休　笠　路　休

ウ

笠　路　笠　休　笠　路　休　笠　路　笠

湧出る泉にみてゝ久しく莊子花
咲るさまを弱き名月　永機
黄昏窓にうつる人の影この春の
風吹ゝ下駄の上きる　玉機
杉影を折しく舟社通る色
り人義を拝と小夜ちくく　玉機
ウ
阿ゝ手を合掌拝ゝ別る竜
八幡宮御八祢ゝ別まり　玉機
夜ゝ入ゝ手を拝ゝ鐘の音社口
ゝ春　杉ふ間ゝ出る月　玉機

素直

社の縁ゝ腰をかけゝ弱ゝ書留ゝ
持ふ阿ゝ手を拝る色社大枝　玉機
書ゝ阿ゝ拝ゝ手を家のひんさら　玉機
たゝ餅を世ゝ　玉機
百ゝ社弁酒ゝ下ゝ引酒全　玉機
櫻ゝ花ゝの湖畔ゝ拝ゝ　玉機
月見ゝ遠焼ゝの竈を空ゝ　玉機
ナ
秋の月ゝ長ゝ月ゝ　玉機、
孫ゝ社垂の稲幕ゝ　玉機
勝強り鉢ゝ壁ゝ塗ゝ　玉機
刈ゝ引ゝ稲ゝ元ゝ川　玉機

打ちくだかれ散りぬ花の宮
瓜繁き二葉の松のいはくみ多き
吹のうちくさ先一出るうるる
都の市北鐘つめ鏡ちおもひ
獄屋寺公のうち抜も年ふる
いり売を草のあるまく掘ちも也
今九年もよれ宝北石ひ
月よをもぶ世毎の鐘まうう
ひとり住つ名も有ぬ出
ウ
五月雨と板の垂ほ新の音
造るくも釋迦木像

撫
歪
撫
歪
撫
歪
撫
歪
撫
歪
撫
歪

碧巖を敷ひさしう乗り出
見て家のあるの多ほう
遠い竹ちをうて花八重咲
小時ちらふ 新ちあるの

撫
歪
撫
歪

翁

名月や池をめぐりて夜をあかす
きぬ里し虫の時雨ちは寄
濃柳ちの月の見ぬ捨らん
あつさ和ら解くく春の手ぬぐい

宏雅
舞仙
雅

行ひ給ふ事を聞の梅
市ヶ瀬くく年の高ひ
手振りもいとすごく馬峰
笠持ち人はかり傘
出立ちも葉とどろく芭蕉庵
葉葉をとる桂子の風
古用丈小さき金り体もおり
鶴ヶ岡いつの春ち猪の子なる
苔の用いつの都ちまとり
用引ちて菜知ったん
子用ち付ける男出代を

貸
精
貸
精
貸
精
貸
精
貸
精
貸
精

能の中ちめ味噌の口ふけ
口和ちと用仕帳寺の芭蕉ち
雷も出いのく弦文初雷
能限のおつる寺芭蕉也
ちてまり社ちる馬子の荷
孫ち帝を載せ出ち社連川
行ちとかいち高岡字姉ち
被ち寺方ちと夕立のちる雲ち
出ちも也行ちてちおけ蕉水
家ちちとを考ちく所ちる鶏の鏡
ちの二ちい峯山投上げちる新

貸
精
貸
精
貸
精
貸
精
貸
精
貸

[illegible]　精
[illegible]　貸
[illegible]　精
[illegible]　貸
[illegible]　精
[illegible]　貸
[illegible]　精
[illegible]　貸

ウ

[illegible]

翻手作雲覆手雨

交りの浅きを[illegible]　永

[illegible]　永機

壁外に利く絶えてより[illegible]

[illegible]　芋雲

[illegible]の入口

[illegible]　機

[illegible]　雲

ウ

[illegible]　機

[illegible]　雲

柳子[illegible]　機

[illegible]　雲

雲風のそよぐ一のうら葉の所為也
所のうり畑は八月作
備さのうち蕎麦役を懸
月影さ所ちりし秋の雨敷
名物菓の名
寺路の引出茶屋
信州郷
川幅の狭布巾
老木のうたの詠の作
小云ちう待ちの
ナ

機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲

うらの所さかなる絶衣柳
松黄を植えるを時のうり
上手先のうちの
船出の参ハ体出水の
酔ふ面ふ形ふ銀の
立関のこのうち
獣猫の影社まる
制返る鑑押一
見の辞世
界江戸退屈の
寄の赤ちの

機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲
機雲

八十六歌仙坤之巻終

雲機

雲機

雲機

雲機

書肆探古堂藏版書目

善哉庵予雲編輯
明治
俳諧八十六歌仙　初篇二冊　定價金五拾錢
二篇近刻

廣田精知編輯
明治附合集　一冊　定價金拾五錢

廣田精知編輯
明治
發句
圖画
秋津集　春夏二冊　定價金六拾錢
秋冬近刻

内海良大編輯
俳諧
發句 明治集 小本二冊 出版

其角堂永機
雪中庵梅年編輯
俳諧
古現 五百題圖繪 四季四冊 近刻

大熊辨玉編輯
由良年呂集 半紙本二冊 定價金四拾錢

夜雪庵金羅編輯
名所
發句 道之栞 横本一冊 定價金拾二錢

明治十三年三月九日出版御届

編輯人 下谷區阪本壹丁目 田村太左衛門

出版人 日本橋區吳服町 西口忠助

發兌人 芝區三島町 山中市兵衛

同 日本橋區本石町二丁目 江島喜兵衛

發

西京　川勝德治郎　東京　北畠茂兵衛
同　勝村治右衛門　同　稲田佐兵衛
同　田中治兵衛　同　大倉孫兵衛
大阪　松村九兵衛　同　小林新造

賣

同　柳原喜兵衛　同　山中孝之助
同　前川善兵衛　同　北郎
同　岡島眞七　同　中外堂梅治郎

書

尾張　片野東四郎　同　東生亀治郎
岐阜　玉井忠造　同　水野慶治郎

肆

甲府　内藤傳右衛門　同　蠹寺萬治郎
沼津　小松浦吉　同　石川治兵衛
信州　小枡屋喜太郎　同　瀬山直治郎